

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|-------------------------|---|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| 大学名等 | 聖マリアンナ医科大学 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がん診療支援者養成コース（インテンシブコース） | | | | | | |
| 対象者 | 医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、遺伝カウンセラー等 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 最長4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | <p>個々の患者における最適ながん診療の実現を目指して、それぞれのライフステージに応じた多角的支援ができる人材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Patient-reported outcome (PRO)を重視したがん薬物療法を実践できる人材 ・ 治療早期から、制癌治療と緩和ケアとの統合を実践できる人材 ・ 妊孕性温存やオンコネフロロジーについて正しく理解し、実践できる人材 ・ 就労支援、アピアランスケアやグリーンケアなど、患者家族を含めた包括的支援を実践できる人材 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 15時間/年以上の履修 | | | | | | |
| 履修科目等 | <p>腫瘍センターにおける以下の部門での実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がん診療を担当している関係講座の外来診療 ・ 緩和ケア外来・緩和ケアチーム ・ がん・生殖医療外来 ・ オンコネフロロジー外来 ・ がん相談支援センター・がんサロン | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | <p>本学では、個々の患者における最適ながん診療の実現を目指して、PROをより詳細にマークシートにて把握する試みを臨床試験として行ってきた（Y.Horie, et al., European Cancer Congress 2015 ORAL presentation #1504）。現在は日本サポータティブケア学会と連携して、PRO収集システムの再構築を含めた検討を開始している。また、治療早期からの制癌治療と緩和ケアとの統合については実臨床で実践しているが、本邦に即した最適な統合を目指して、同じく日本サポータティブケア学会と連携して全国規模の調査研究を開始予定である。本コース受講者は、これらの学会と連携した活動や開発に腫瘍センターメンバーとともに参加することにより、個々の患者における最適ながん診療を実践的に学習する。</p> <p>院内では、妊孕性温存やオンコネフロロジーについて、効率的に診療が行えるよう体制をが整備されつつあり、本コース受講者は集約して実習できるシステムとなっている。就労支援、アピアランスケアやグリーンケアなど、患者家族を含めた包括的支援についても、がん相談支援センター・がんサロンにて、実践的に学習する。</p> | | | | | | |
| 指導体制 | 臨床腫瘍学講座、がん診療を担当している関係講座、緩和ケア外来・緩和ケアチーム、がん・生殖医療外来やオンコネフロロジー外来担当講座、がん相談支援部会 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 緩和医療専門医、緩和ケア認定看護師、がん看護専門看護師、緩和薬物療法認定薬剤師等 ・ 臨床心理士、社会保険労務士 ・ がん薬物療法専門医、がん関連専門薬剤師、専門看護師 ・ 臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラー | | | | | | |
| 受入開始時期 | 平成30年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 | 対象者 | H29年度 | H30年度 | H31年度 | H32年度 | H33年度 | 計 |
| | インテンシブ | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |
| | 計 | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |